

会越国境 守門川大滝沢

古野

【日時】 2009年9月30日(水)～10月1日(木)

【メンバー】L手嶋、古野、他会1名

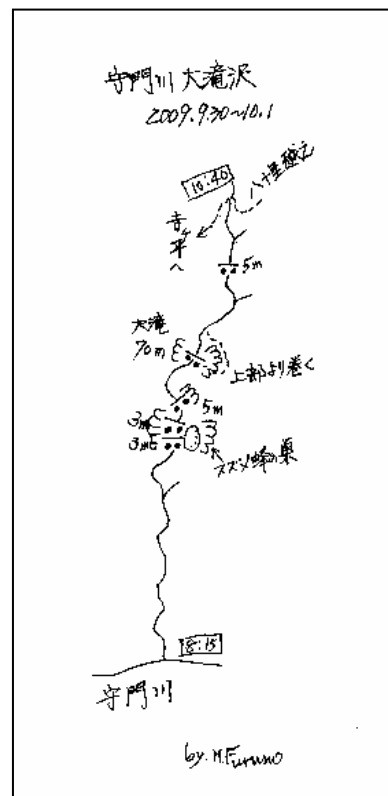
中国に赴任してから2ヶ月しか経ってないのに沢が、特に溪流が恋しくなって国慶節休暇が決まった時点で手嶋さんに「平日だけど簡単な沢に付き合ってくれませんか?」と頼んでおいた。場所も含めていろいろあったが、以前計画して行けなかった守門川湯又沢から八十里越に抜けるルートを選んだ。なんと高桑御大も付き合ってくれるという。

朝発で、カーナビを信じて小出から入ったら結構時間がかかってしまい、出発地の吉ヶ平を出たのは午後を1時間半も過ぎていた。ここ吉ヶ平は八十里越の越後側の起点となる宿場があったところで今は無人だが廃校となった分教場の建物が残っている。そんな気配を感じつつ川沿いの道を南下する。二つ目の堰堤の所で道を失って戻るがここからは歩きにくい道となり、沢に降りる。大滝沢出合から少し上流部で絶好のテン場がありその誘惑に負けてザックをおろす。ナナカマドの実が真っ赤に熟しているのが秋を感じさせるがそれ以外はまだ夏の名残が残っている。

十分な薪と十分なつまみで早めの宴会スタートとなる。オジサンばかりで時々難しい話をしていたように思うが「明日になったら忘れるよ。」と言っていたとおりになった。沢の水を平気で飲めるということは大変大変すばらしいことなんだ、ということ自分を力説していたように思う。今はほんとに心からそう思う。このひとときが今回の山行のメインである。

翌日は晴れの予報がどうもハズレのようで小雨がぱらついている。予定よりもずっと手前でのテン場となり、半ば予期していた短縮ルートに傾いた。大滝沢の大滝も興味あるよね、という少しばかりの言い訳も付けて。

しばらくは地形図の通りに何も無い溪相で水量も多くない。沢が狭まると大滝が遠望できる。さすがに高さはあるが傾斜は思ったより無いように思えた。前衛の滝を越えると目の前が開ける。右岸側から水流は左岸川へ斜めに落ちている。一見水流沿いに登



って左にトラバースすれば行けそうに見える。手嶋さんは左の乾いた岩棚に登っていくのが良いというのがその取り付きは立っている。結局右の草付きを登って上部まで行き、弱点を探すが上部ほど傾斜がきつく、岩壁になっているため、少しくだって灌木帯から巻くことに。木はあるものの結構な傾斜で上部ではまた岩壁となるため小さなバンドを伝わってのトラバースとなる。自分にとってはヒヤ汗ものの所もあって緊張した。最初高さ60mとメモに書いたが80m位はあるかもしれない。

大滝の上は穏やかな溪相に戻る。二俣は左に取っていくと沢を小道が横切っている。八十里越である。自分のイメージよりは狭く、普通の山道と変わらない。でも徐々に幅は広くなり良い雰囲気になる。小説「峠」の戸板で会津に抜けた一節を思い、その苦労を偲んだ。膝が痛くて遅れ勝ちになるが1時間ちょっとで吉ヶ平に着いた。

計画よりは大幅な短縮だったが大滝は思った以上のアルバイトであったし、宴のひとときも思った以上の楽しさだった。帰ってから膝がかなり痛くなったので短縮して正解だったようである。大滝は手嶋さんがメールで書かれていたように登攀力のある人であれば登ることが出来そうである。見た目よりは悪そうですが。

お二人には年寄りに付き合ってもらい、ありがとうございました。

【行程】 9/30 吉ヶ平出発(13:25)～守門川BP(14:50)

10/1 BP(8:00)～大滝沢出合(8:15)～大滝下(9:00)～八十里越(10:40/11:00)
～吉ヶ平(12:15)

【地形図】 守門岳



大滝

下から見ると登れそうだが、上部は傾斜がきつい。(右)



八十里越の道に行く